

平成 28 年 11 月 25 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 笠原 久恵 様

議会報告会	2 班
班長	藤井 俊行
	近藤 美保
	野村 誠
	菅野 浩考
	植田 和子
	中川 弘
	青野 直

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 28 年 11 月 12 日 (土)
午前 9 時 30 分～午前 11 時 45 分
- 2 場所 南流山センター 会議室
- 3 欠席議員 無
- 4 参加者数 31 人 (内、他班の議員 2 人、職員 1 名)
- 5 報告内容
 - ①第 12 回議会報告会のその後について
 - ②南部地域における小学生以上の子育て環境の課題について

6 意見交換内容

Q&A

【1】質問（鱒ヶ崎小学校区、女性）

- 学童の保護者会で4年生以降の居場所について、皆さんどのよう
に思っているのかというアンケートをとった。
 - その結果、平日日没（共働き夫婦が帰宅するまで）、長期休み、
土曜日に、児童センターなど公設あるいは民設を子どもたちの
ために開放してもらいたい。
- 可能であれば今後、この議題についてざくばらんに意見交換が
できるような場を保護者と設けていただきたいと思う。

回答（藤井議員）

- 児童館については、全市的に不足していると議員は皆思っている。
- 流山市では、放課後子ども教室を行っていない。他市では実施し
て学校を開放し、先生たちが子供たちを放課後も見てくれるとい
う仕組みがある。流山市では実施されていないが、議会としても
何らかの形で取り組んでいきたい。一般質問の中で取り上げてい
きたい。
- 意見交換会がしたいということであれば、事前に日程調整ができ
れば参加できると思う。

回答（近藤議員）

- お忙しい中、調査頂き感謝する。多岐にわたる提言を頂いた。議
員の方々にもご意見を頂きながら優先順位を精査し、調査・対応
していきたいと思う。少し時間をいただければと思う。

回答（中川議員）

- 学童保育所の運営委員長を8年やっていた。昔はお母様方と一緒
に運営していたため、土曜日や夏休み保育を実施していたが、指
定管理者になってから柔軟な対応がしにくくなった。
- 4年生以上の学童保育については、自我の目覚めが進み、「自分の
好きな子と遊びたい」、「習い事が増え」ることにより、欠所（欠
席率）が高くなる。利用する方も柔軟性を持って臨んでいただく

ことが結果として早期問題解決につながるのではないかと思う

【2】質問（南流山6丁目、女性）

- 子供に教育を提供する場として、決まった曜日や決った時間に南流山センターや図書館などを開放してほしい。
- 図書室の勉強コーナーにある簡易イスは、経年劣化のため長時間座ってられない。

回答1（藤井議員）

- 利用時間の延長は、条例変更の必要があるため少し時間がかかる。
- 学校の一部開放については、流山市では実施しないことになっている。しかし図書館等の開放については、今後私たちの方でもアクションをしてきたい。
- 備品に関しては市長懇談会などで発言していきたい。

回答2（菅野議員）

- 先日、森の図書館と木の図書館の指定管理者を募集した。
 - 応募した民間企業の中には、勉強時間のために開放を設けている。
 - 本日現在で指定管理者にそういった企業が選ばれたかは定かではないが、選定にあたっては勉強時間のために施設開放をするなどの点も盛り込まれているかチェックしていかなければならないと思っている。
 - すでに民間企業が指定管理者になっている他地区の図書館などでも、今後開放することを検討する事を選定基準に入れるなどする必要も出てくる。

回答3（近藤議員）

- 放課後の学校開放については、都内では相当実施されているため研究の余地はある。しかし実施に向けては、児童の人口密度が高すぎないことや子どもを見守る地域の方のご協力など、安全を確保できる条件が必須。現実的な方法を模索していく必要がある。

【3】質問（鱈ヶ崎団地、男性）

- 行政は学区編成について考えているのか。

回答1（近藤議員）

- 現在、行政の方が人口推計をやり直している。
- 学区編成は人口推計の延長線が出てくる話だと思っている。

回答2（中川議員）

- 校区変更については、兄弟姉妹で異なる学校に通うことになったり、異なる学童へ迎えなどの問題が生じる。実施にあたっては慎重な対応が必要である。

回答2（菅野議員）

- 通学区域を審議する市民と有識者によって構成された通学区域審議会というのがある。
 - 本日現在、審議会では、学区編成についての話がまだ出ていないことの確認が取れている。

【4】質問者（おおたかの森小地区、女性）

- 「マンション等の建設に関する条例の制定」に関して、進捗がどうなっているかをお伺いしたい。

回答1（近藤議員）

- 良質な街を整備して住民を誘致する目的で区画整理を進めてきた以上、市は転入（住宅）を抑制するという政策転換は難しいという考えが根底にあるため、市で条例制定することは難しそう。
 - 住民がゆるやかに増えることは嬉しいことだが、急増は問題である。これまで同様、引き続き問題として取り上げていきたい。

回答2（藤井議員）

- おおたかの森地区の東武線の両側に15,000平米を超える大きな商業用地がある。この土地や周辺にマンションが建設されると2,000

世帯ほどの人口がいきなり増加してしまう。

- ▶ 流山市は、URにこの商業用地にマンション以外のものを建設して欲しいという要望を出している。
- ▶ 議会にあるつくばエクスプレスと新川耕地特別委員会も、マンション建設は抑制して欲しいという要望書を提出しているとも聞いた。

回答3（中川議員）

- マンション建設事業者は、先を見通した場合に、収益を手っ取り早く確保するためには、マンションを建設し、販売するのが良いという考えがある。
 - ▶ しかし既得権益の関係で法律的に禁止することはできない。
- 人口推計や予測を緻密に繰り返して早く手を打つというのが必要。

【5】質問者（松ヶ丘、女性）

- 文部科学省が中学校以上の子供を対象に、子ども貧困保護防止法案というのを策定した。
 - ▶ 全国に無料塾を作るというのを展開している。松戸市、野田市、柏市は展開している。
 - ▶ この事業は国庫補助金が出るにもかかわらず、なぜ流山市は利用しないのか。
- 流山市の公共事業は民間企業が関与しているからか、子どもの支援活動は極めて悪い。
 - ▶ 利益を目的とする企業が指定管理者となるのではなく、NPO法人などの利益を目的としない団体にお金を出し、公共事業に関与してもらうべきではないか。
- マンション建設問題については、マンションを建設して人が増えれば良いという問題ではない。

【6】質問者（流山8丁目、女性）

- 保育園・幼稚園、公園について質問がある。
 - ▶ 大規模ではないのに、定員割れの状態が続いている幼稚園がある。保育園の増設ではなく、定員割れの幼稚園に入園できる方

法をなぜ考えないのか。

- 幼稚園の延長保育制度がないため、流山市外の幼稚園を利用している世帯がいる。幼稚園の延長保育制度も検討してもらいたい。
- 流山8丁目から5丁目のあたりには公園がほとんどない。教員住宅の跡地などをなぜ公園にしないのか。

回答1（中川議員）

- 延長保育園をやっていないところは定員割れしやすく、延長保育のある保育園は定員いっぱい。この点は課題となってくる。

回答2（藤井議員）

- 民間幼稚園に対して延長保育を取り入れるように、流山市からお願いしてみてもどうかという点について、次の12月議会の一般質問で取り上げようと思っている。
 - 認定こども園の幼保一元化はメリットが少ないため、なかなか進まない。
- 公園についても12月議会で一般質問する予定である。
 - 流山市は市の予算で土地を購入し、公園を建設することをやっていない。また開発事業者からの提供公園は、一定以上の面積を必要とする（例として、戸建て30軒から40軒の面積で2軒分くらいの広さの公園が提供される）。

回答3（青野議員）

- 現在、連合自治会で教職員住宅の跡地問題について協議をしている。
 - 1号棟から3号棟まである教職員住宅のうち、現在使用されているのは3号棟（10世帯）のみ。平成31年には完全閉鎖になる。
 - 跡地は、公園化や高齢者の集まる場所にし、みなさんが楽しめ、かつ災害時の避難場所としても利用できる場所にしてもらいたいという意見がある。これからも皆さんのお力をお貸しいただきたい。

回答 4（菅野議員）

- これまで私立幼稚園の協議会から、預かり保育を行うという声は上がってこなかった。しかし近隣自治体の幼稚園の状況を見て、預かり保育を行っていくことを検討し始めた。
 - 補助金を活用した預かり保育の実施案も会議で出てきている。

回答 5（中川議員）

- 以前、南流山 1 号公園には駐車場があったが、近隣住民の駐車場となってしまう、公園利用者が駐車場を利用できなくなってしまう。
- 市を擁護するつもりではないが、公園の整備計画は市域全体で人口 1 人当たりの面積で整備をしていくため、他の地域で面積が足りていると、どうしても足りない地域が出てきてしまうという偏在の問題がある。
- として、県道草加-南流山線側には神社がないという点は、南流山地域特有の問題である。
 - 神社にある鎮守の森で子供たちは遊ぶことができるが、南流山地区には一切ない。今後南部地域の議員の皆さんも対応して頂いて頂けるのではないかと思う。

【7】 質問者（南流山 6 丁目、女性）

- 新しいマンションの建設には、保育園の併設などが奨励されているが、できれば大きい子の居場所となるようなスペースも奨励していただきたい。
 - それが学習スペースであろうと居場所であろうと構わない。30 年後には高齢者の居場所にも活用できるかと思う。

回答 1（近藤議員）

- 市はマンション建設時 200 戸以上であれば、保育園をつくるように指導している。またご提案と同じ項目を市に要望している。

【8】 質問者（新川小学校区、男性）

- 大阪では、子供の頃からの地域包括ケアプログラムがある。

- ▶ プログラムの中核を担う人材として、長期的に関わることが可能な言語聴覚士を充てている。
- ▶ 学校単位、施設単位での子育ては、子どもたちの居場所の確保や経営者、保育士の不足など連携が難しい。
- ▶ ずっと関わり続けられることを考慮し、流山市はどう言った社会資源（どこにどういう人たちがいるのかなど）を、一度全部洗い出してみる必要があるのではないかと思う。

【9】 質問者（南流山6丁目、女性）

- 先ほどからの回答を聞いていて、私たちと若い住民、若い議員たちとは生活感覚のズレがあるように感じる。
 - ▶ 自転車などで行動できる生活圏内（南流山センターのある地区）に利用できる場所が欲しいというのが一番の願い。
 - ▶ 生活感覚は決して一致しない中でも、議員には理解してもらいたい。

回答1（菅野議員）

- 先ほど説明したことに対して異なった認識をされているようなので、再度説明させて頂きたい。先日の指定管理者募集において、勉強するスペースや子供の立場に立ったサービスを提供するなどしている民間企業が応募されている。そういったサービスを提供する指定管理者を選定することも今後考え、選定基準に入れるべきではないかと思う。

【10】 質問（鱈ヶ崎、男性）

- 人件費は特別職、流山市役所の職員の給与であるが、正社員以外のパート及び再雇用者の人件費、委託料金は、物件費に含まれている。平成26年度の総額57億円のうち、人件費と思われる11億円が物件費の中が含まれている。このような振り分け方は間違いではないか。
- 平成28年度の流山市の職員のボーナス。いろんな手当（扶養手当は1人あたり13,000円、子ども手当は1人6,500円）が、基本給に含まれている。総額1億3,000万円は本来支払う必要のない金

額。自助、共助、公助の部分でやっていただければ、1億3,000万円は節約でき、公園や駐車場整備、学童の人件費などに充当できる。

- 部長の管理職手当は、毎月87,000円。国民年金で毎月4-5万円、厚生年金で毎月6-7万円の支給である。自治会費は1年間に10数万円の支給しかない。部長の管理職手当の半額を自治会長にあげるなどすれば良いのではないか。流山市は危機管理が薄い。

【11】 質問者（松ヶ丘、女性）

- 黒字を出すことがいいことなのか、緊急の課題を解決する方がいいのか、委員会を作って予算の有効活用をしてもらいたい。
- 現場と執行、行政に乖離がある。もっと先生方に努力してもらい、課題解決に向けて頑張ってもらいたい。
- 特定疾病の手当が平成29年度から減額されるが、本当に弱者サービスと言えるのか。

【12】 質問者（鱈ヶ崎、男性）

- 通学路の安全性の対策者は、なぜ小学校長ばかりなのか。通学路の安全点検を小学校長に依頼している。総合的にやらないと対策にならない。
 - 通学路の安全性の責任者は誰になるのか、市はどのように対応するのか、今後の安全対策についての責任の所在など、議会から市に確認してもらいたい。

【13】 質問者（鱈ヶ崎、男性）

- お守り隊は、年寄りがやればいいのかという問題ではない。若い方が本気になって盛り上げてもらわないと、なかなか市だって動けないということがある。
 - 地域のため、子供のために、若い方が安心安全を確保していただきたい。
- 流山市の人口は増えているが、人口を増やした方がいいのか、このあたりで緑地を増やし、皆さんの環境を整えていくことが大切なのか、ぜひ議会から回答をもらいたい。

回答 1（藤井議員）

- 全国的に少子高齢化と言われている中で、（人口が）増えることはいいことだと思う。増えた方たちの固定資産税によって、さらに施設整備などをしていくので、活力あるまちを作っていくためには、ある程度の人口が増える必要があるただ、急激に増えているのは、ライフラインの整備が追いつかなくなる。

回答 2（菅野議員）

- （人口が）急激に増えるのはどうかと思っている。
- 流山市は、名産や観光地をなんとか作ろうと切磋琢磨しているが、なかなか芽が出ない。
 - 流山市の唯一の収入源は、固定資産税や市県民税などとなる。人口に応じてやりくりをして、皆様のご要望を1つでも多く叶えるように切磋琢磨していきたいと思う。

回答 3（青野議員）

- 計画的な行財政や運営の元に、人口を増やしていくのがベターだと思っている。流山に来て60年になるが、故郷は小学校も中学校も廃校となり、惨めな実態を見てきている。

回答 4（植田議員）

- 人口が減るよりは増える方がいいと思う。ただ、保育園、幼稚園、児童館、小中学校などの施設をきちんと整備・管理した上で、人口を増やしていくのがいいと思う。やみくもに増やすのは良くない。

回答 5（近藤議員）

- 人口について、急増は問題だが、緩やかに増えるのは良い。流山市はベッドタウンとして発展してきた歴史からシニアの方が非常に多い。全国的には10年間で後期高齢者は1.3倍で増えていくところを、流山市は1.7倍くらいで増えていく。これらを支える若い方にどうしたら流山市を選んでいただけるかということも考えなければならない。

回答 6（野村議員）

- だいたい皆さんと同じ意見だが、流山市も急激に今増えているが、必ず人口が減る時がくる。ただ施設を増やすのではなく、その後どう利用していくか、長期的な展望に立って対策をとっていただければと思う。

回答 7（中川議員）

- 人口はやはり増えた方がいい。ただここで、今の世代ではなくて流山で生まれ育った子が、また流山に帰ってきて、子育てをしたいという町でなければいけない。非常に中長期的な課題となってくる。

7 参加者から議会への要望（意見交換内容と重複）

- ・ 地域のため、子供のために、若い方に安心安全な通学路を確保していただきたい
- ・ 通学路の安全性の責任者は誰になるのか、市はどのように対応するのか、今後の安全対策についての責任の所在など、議会から市に確認してもらいたい。
- ・ 自転車などで行動できる生活圏内（南流山センターのある地区）に利用できる場所が欲しい。
- ・ 幼稚園の延長保育制度がないため、流山市外の幼稚園を利用している世帯がいる。幼稚園の延長保育制度も検討してもらいたい。
- ・ 流山 8 丁目から 5 丁目のあたりには公園がほとんどない。教員住宅の跡地などを公園にしてほしい。
- ・ 新しいマンションの建設には、保育園の併設などが奨励されているが、できれば大きい子の居場所となるようなスペースも奨励していただきたい。
- ・ 幼稚園の延長保育制度がないため、流山市外の幼稚園を利用している世帯がいる。幼稚園の延長保育制度も検討してもらいたい。
- ・ 利益を目的とする企業が指定管理者を選定するのではなく、NPO 法人などの利益を目的としない団体にお金を出し、公共事業に関与してもらおうようにしてほしい
- ・ 子供に教育を提供する場として、決まった曜日や決まった時間に南流

山センターや図書館などの公共施設を開放してほしい。

- ・ 図書室の勉強コーナーにある簡易イスは、経年劣化のため長時間座ってられないので直してほしい。
- ・ 平日日没（共働き夫婦が帰宅するまで）、長期休み、土曜日に、児童センターなど公設あるいは民間施設を子どもたちのために開放してもらいたい。
- ・ 可能であれば今後、この議題についてぎっくばらんに意見交換ができるような場を保護者と設けていただきたい。

8 所感

・ 藤井 俊行 議員

「今回の議会報告会では、前回に引き続き子育て関連の報告となりました。参加の対象となる市民の皆様が学校のバザーや土曜学級・地域や市民団体のイベントなどと日程が重なってしまいましたが 30 名近い方たちの参加を得ました。

今回も切実な訴えも多く、様々な立場の市民から問題提起もありました。参加者を増やすのに動員は良くないという議論も過去にありました。これは議員の支援団体に声をかけるものです。班として、ポスティングや駅頭活動など市民に周知させていく活動が必要だと感じました。今回の市民の意見も書く議員が取り上げ政策的にも進められることに期待します。」

・ 近藤 美保 議員

テーマとして南部地域の小学生以上の課題について取り上げたにも関わらず各小学校のイベントと重なってしまったことは反省点であるが、その中でも多くの市民の方々にご参加いただき、忌憚ないご意見・ご要望を頂けた。優先順位を精査しながら、現実的で効果の高いものについては積極的に市に提言していきたい。

・ 野村 誠 議員

今回のテーマが、「南部地域の小学生以上の子育て環境の課題」と言うことで、前回の「子育て環境の課題提起について」に引き続き子育て環境をテーマ選定したことで、当日様々な学校行事が行われてい

たのにもかかわらず、多くの参加者があり、改めて、関心を持っている方が多いと感じました。活発な質問や要望をいただき有意義な議会報告会になったと思います。終了後のアンケートシート（18枚回収）にも新たな要望、意見が寄せられておりこちらも含めて課題整理を行い、委員会調査、一般質問などの方法により、今回近藤議員が議会報告会のその後についてまとめていただいた様に、次回も同じように調査報告ができればと良いと思います。今回事前に駅頭で議会報告会のチラシを配布したり、ポスト投函など行いましたが、チラシを見て関心を持っていただいた女性の方もいました。事前のPR活動も大事であると思いました。

・ 菅野 浩考 議員

大変有意義な議会報告会であった。子育て世代の参加者より現状を丁寧に説明頂き委員会としての諸課題が明確になった。今後も子育て世代は勿論の事、障がい者（児）の保護者や高齢者への政策課題にも目を向けて行かなければならないと感じている。議会報告会を議会における広報広聴の機能の中に位置付けているが報告に徹するという概念に縛られているように感じる事がある。議会活動の広報に重きが置かれたり、あるいは住民からの意見聴取が目的とされたりするが、議会報告会は広報と広聴の両面を合わせ持つべき取り組みであり、この両面の重要性が認識されていないと、議会報告会を開催しても住民からの陳情や要望、苦情に終始することになる。議会と住民が意見交換を行う上では、まず何よりも二代表制での地方議会の役割についての住民の理解が不可欠である。地方議会や地方議員の役割について十分理解されていない場合、議会報告会での質疑が誤解による議会や議員への批判ばかりにもなりかねない。議会報告会の開催にあたっては、まず議会が丁寧に説明するということが重要であり、議会の権能や権限、首長と議会の関係について説明し、住民の理解を深める必要もある。市民の地方議会への理解という土台があつてこそ、議会と住民の間で健全なコミュニケーションが取られることになるのではないかと思う。今後、自治会などの協力も得て開催するなど議会報告会の概念を変えても良いと思う。議会報告会の実施主体は議会である以上、議会が主導権を握るのは当然かもしれないが、今後は開催自体を議会と

住民が共に作り上げるという議会報告会のあり方を模索していく必要もあると思う。そして、そのような取り組みが、議会への監視機能・政策立案機能・市民参加を合わせ持つ協働型議会の実現にも繋がっていくのではないかと感じる。

・植田 和子 議員

今回は、南部地域の小学生以上の子育て環境の課題をテーマにしましたが、やはり関心は高く、保育をテーマにした5月の議会報告会と同様に多くの市民の方に参加して頂きました。独自にアンケート調査をして結果をまとめてこられた保護者の方もいて、必死な思いで、この流山市で子育てされていることがよくわかりました。安心して子育てできる流山市へ、引き続き、行政に訴えていかななくては、と思いました。この日は、小学校の土曜日参観だったそうで、授業参観を諦めて、子どもの将来を考えてこっちに来た、との発言には申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。子育て世代をテーマにする場合、子ども家庭部、学校教育部とも連携して日程調整をする必要があると思いました。

・中川 弘 議員

議会報告の内容そのものに関してはやや一方通行的な印象が否めなかった。報告事項のあと市民の皆さんと意見交換を行ったが議会での要望事項が多くあり意見交換というより要望会的色彩が濃くなった。議会として行う議会報告会の在り方は非常に難しい問題であり、より多くの方に興味を持って参加して頂くために現在の常任委員会単位に4班に班分けする運営方式を見直すべき時が来ている様に感じる。

・青野 直 議員

この度の議会報告会も市民の声を伺える貴重な機会となり、大変有意義な報告会になりました。今回は特に子育て世代の参加者が多く、南部地域で抱えている諸課題について率直なご意見や要望を伺えました。南部地域の自治会や関係所管とも今回の議会報告会で頂いた諸課題について意見交換をし問題解決に取り組んでいきたいと思えます。又、これからも子育て世代の市民との意見交換を通じ、一緒に諸課題

に取り組んでいきたいと思っております。

以上